

2017年

日本語教師ボランティア その2

(通勤時のバス事情)

土曜教室 小林 保

第1センター、第2センターともにホーチミン中心部から離れた所にあり毎日バスで通っています。バスの待ち時間、バスを降りてからの徒歩の時間を含め第1センターには50分、第2センターには40分程かかります。帰宅時はラッシュのため、更に30分程かかることもあります。バスの乗車券はITMから支給され、通勤以外にも休日に市内の散策によく利用します。

ホーチミン市には電車、地下鉄、モノレール等はなく、主な交通手段はバイク、バス、タクシーでITM職員は全員バイクで通勤しています。実習生の多くもバイクを持っており、休日や授業終了後にバイクで出かけているようです。

ホーチミン市内に数多くのバス路線があり、上手く乗り継ぐといろいろな所に行けます。ITM職員は殆どバスに乗らないせいかバス路線に詳しくなく、もっぱら自分で地図を広げ週末に行く目的地へのバス路線を検討します。乗車料金は日本に比べ安く、15km以下の路線は約25円(5,000ドン)、15km以上の路線は約30円(6,000ドン)です。ほぼ半数のバスは旧く、中にはエアコンの装備もないバスもあり、海外で使った中古車のようにです。バスの床は高く3段ほどのステップを上り降りするので身体障害者、高齢者にはきついと思われます。

バス停には時刻表がなく、特に夜間はバスが来るかどうか不安になります。看板を掛けたポールが歩道に立っているだけのバス停が多く、表示が分かり難く初めての旅行者が見つけるのは大変です。

一部運転手のマナーに少し問題があり、誰か教育して欲しいとも思います。以下私が感じたベトナムのバス事情について書きます。



バス停

看板には路線番号と行き先が書いてある。

- 乗客が乗り降りしている最中でも、バスがとろとろ動き出す。しっかりと止まって欲しい。
- 運転手が好みの音楽やラジオを車内に流し、まるで自分の車を運転しているようです。時には聴き入るような音楽が流れることもあるが、たいていは耳障りなことが多いです。
- 道が渋滞していると、勝手に路線を変えることがある。変更する前に車内アナウンスしたかも知れないが、外国人には全く分からない。昨年、3ヶ月の間に2回経験しました。ホーチミンに来て間もない頃で、風景を見て降りる場所を判断していたが、見覚えのあ

る場所に到着しない。そのまま遠くまで乗り過ぎてしまいました。バスを降り、反対車線で同じ番号のバスに乗り、無事帰ることが出来ましたが、ホーチミン市内は一方通行が多く、バスの行きと帰りで路線が違うこともあり、同じ番号のバスに乗ることで戻れるとは限らないので注意が必要です。

悪いところだけでなく、良いところもあります。

- 若者が年配者を見ると進んで席を譲ってくれるので、通勤時は必ず座れます。
- バスに乗り遅れそうな時大きく手を振ると、待ってくれる親切な運転手もいます。
- バスで1時間半程の郊外にあるアオザイ博物館に行った時のことです。博物館のベトナム名を紙に書き、車掌に見せるとバス停ではないのに、博物館方面の道の入口にバスをとめてくれました。本当に助かりました。
- 渋滞すると路線を変えた運転手も、乗客を早く目的地に連れていきたい親切心でしたのかも知れません。

